



Press Release

2013年7月4日  
ダウ化工広報室

## ダウ化工、今年も笠岡市立カブトガニ博物館へ寄贈

～カブニのクイズコーナーが完全リニューアル～



写真左：寄贈式で三島市長とスポット・ケートプラカーン社長  
写真右：クイズコーナーと横江幼稚園の園児たち

ダウ化工株式会社（本社：東京都品川区、代表取締役社長：スポット・ケートプラカーン）は、2013年にも「地域社会繁栄への貢献」ダウ・プロジェクトに基づき、岡山県笠岡市に向けた寄贈計画を実施しました。2013年7月3日、ダウ化工社長のスポット・ケートプラカーンおよび笠岡工場長の芝沼 光司が笠岡市立カブトガニ博物館を訪問し、笠岡市の三島 紀元市長に寄贈目録を手渡しました。

2006年よりダウ化工は、笠岡市教育委員会を通じて地元での地域貢献を目指した寄贈プログラムを開始しました。笠岡市との協議の結果、寄贈プログラムは、笠岡湾のカブトガニとカブトガニ繁殖地に指定されている海岸周辺の保護および教育に寄与することを目的として継続しています。ダウ・プロジェクトを開始して8年目となる2013年は、カブトガニについてクイズで学ぶ「カブニのクイズコーナー」の展示に使われるモニターとタブレット端末をカブトガニ博物館へ寄贈しました。これまでは、クイズコーナーでは手作りの資料が設置されていましたが、設置から時間がたった資料には随所に傷みが見られました。クイズコーナーがリニューアルすることで同館の集客度が高まり、来場者によるカブトガニへの関心が高まることを期待しています。同時にダウ化工は、このような寄贈プロジェクトにより、潮干狩りなどが原因となって荒廃が進む干潟の環境保全に努めることで、地元の海岸が美しく保たれ、笠岡の知名度アップにもつながることを目指しています。

今回の寄贈に関し芝沼 光司工場長は、「息の長い寄贈プログラムを通じて、カプトガニの繁殖地である笠岡湾の自然保護に寄与できればと願っています。ダウ化工が笠岡市で操業する『スタイロフォーム™』断熱材の工場もフル稼働が続いています。地元経済への着実な貢献を目指し、今後も笠岡工場一丸となって努力いたす所存です」と述べています。

ダウ化工は、米国石油化学品トップのダウ・ケミカルの子会社です。ダウ・ケミカルの「2015年持続可能目標」のひとつに「地域社会繁栄への貢献」があります。この目標の達成を目指した国内活動の一環として、ダウ化工は、今後も地域貢献活動を工場の所在地である笠岡市で実施していく計画です。

ダウ化工の笠岡工場は、1982年より「スタイロフォーム™」押出発泡ポリスチレン板の生産に従事しています。「スタイロフォーム™」は住宅やビルの断熱材として世界中で広く利用されています。

®™ダウ・ケミカル・カンパニーまたはその関連会社商標

---

---

ダウ化工広報室 沢登（電話：03 5460 6276 メール：[rsawanobori@dow.com](mailto:rsawanobori@dow.com)）

ダウ・ケミカルは米国ミシガン州に本社を置く世界最大の石油化学品メーカーです。世界160カ国で事業活動を展開するダウの年間売り上げは約570億ドル、従業員数は5万4千人です。世界36カ国188カ所の製造拠点で、5千を上回る生産に従事しています。ダウ・ケミカルは1973年に東京証券所に上場した最初の外国企業です。[www.dow.com](http://www.dow.com)

## <付随情報>

### これまでの笠岡市への寄贈について

- 2006年 カプトガニ繁殖地の天然記念物保護啓発看板（3基）およびカプトガニ博物館の屋外ベンチ（5基）を寄贈
- 2007年 カプトガニ繁殖地の天然記念物保護啓発看板（3基）を寄贈
- 2008年 カプトガニと同時代に生きた恐竜（プロトケラトプス）の骨格模型（高さ1.8メートル）を寄贈
- 2009年 カプトガニ繁殖マップを寄贈
- 2010年 ドイツで発見された13メートルに及ぶ1億5千万年前のカプトガニ這い跡化石レプリカの展示パネルを寄贈
- 2011年 大型モニターやDVDプロジェクターを内蔵した総合展示器具を寄贈
- 2012年 ティラノサウルス・レックスの頭骨模型を寄贈